

平成 22 年 5 月 31 日現在

研究種目：若手研究 (B)
 研究期間： 2007 ～ 2009
 課題番号：19710222
 研究課題名 (和文) 日本の性的マイノリティにおける名づけと自己表象をめぐる文化分析と理論構築

研究課題名 (英文) Cultural analysis and theorization regarding the self-naming and self-representation in sexual minorities in Japan
 研究代表者 清水 晶子 (SHIMIZU, Akiko) 東京大学・大学院総合文化研究科 ・准教授

研究者番号：40361589

研究成果の概要 (和文)：グローバルなクィア・カルチャーの広がりの中での日本における性的マイノリティの自己表象の可能性を主に視覚的文化表象を通じて分析し、英米を起源とするクィア理論／運動によって焦点化されてきたものとは異なる、戸籍制度と再生産管理をその中心とする権力作用と文化規範に注目した対抗理論の必要性を明らかにした。

研究成果の概要 (英文)：This research demonstrates the importance of a different theory of counter-politics in Japan from those proposed by Anglo-American queer theories. Through an analysis of visual culture and queer representation in Japan, it concludes that this localized theory should focus on the power structure and cultural norms centred around the family registration system and reproductive control.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007 年度	1,100,000	0	1,100,000
2008 年度	900,000	270,000	1,170,000
2009 年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	2,600,000	450,000	3,050,000

研究分野：複合新領域

科研費の分科・細目：ジェンダー

キーワード：セクシュアリティ、ジェンダー、クィア、表象

1. 研究開始当初の背景

クィア・グローバリゼーションも称される「英米起源のクィア」の均一化・規範化への対抗の必要性和、それにともなう、とりわけ東アジア地域におけるハイブリッドでグローバルな理論構築に向けた学問的要請を背景に、グローバル／ローカルを往還する二重性との関連において、マイノリティの自己表象パフォーマンスの分析と、その政治性の理論的考察とを試みる必要があった。

2. 研究の目的

1. で述べた学問的、社会的背景にもとづき、日本におけるクィア・アイデンティティ及びクィア・ポリティクス現状と可能性についての理論化をおこない、日本／東アジアにおけるクィア・スタディーズが検討すべき問題点を明らかにすると共に、英米起源であるクィア理論全般に対して新たな視座を提供する事を目的とする。

3. 研究の方法

とりわけ9/11以降のクィア理論における主要な論点の一つであるグローバリゼーションと国家という問題設定を中心に、現代のクィア理論の文献およびそれにかかわるフェミニズム理論やポストコロニアリズム理論の文献を検討しなおすと同時に、具体的な表象作品の分析を通じてこれらの理論への現代日本という特定の地理的・歴史的立場からの介入を試みた。研究開始当初は、これと同時に日本の性的マイノリティによる雑誌やパンフレットなどの文書の分析を通じて、それらにみられる自己命名のポリティクスを考察する予定であったが、研究の進展につれ、現代の日本の性的マイノリティの生を考える上での主要な問題は、名称選択に特徴的なアイデンティティとそのカテゴリーにまつわる政治にではなく、むしろ再生産と国家の自己同一性をめぐる権力効果にこそ直接関係していることが明らかになってきたために、考察の中心をそちらに置き換えて研究を行った。

4. 研究成果

本研究では、具体的な性的マイノリティの生の向上を目指す政治的側面と、性・身体・欲望をめぐる規範的権力作用への批判的介入を目指す理論的側面との二つの側面を同時に持つものとしてのクィア理論のあり方を念頭におきつつ、これを現代日本の具体的な政治的・社会的文脈に即して実践することを目的とした。その結果、初年度の学会報告でのネオリベラリズムを巡る分析から最終年度におこなった少子化対策法にかかわる分析まで、一貫して明らかになってきたのは、現在の性や身体、欲望をめぐる規範がもっとも直接的に動員されるのは、日本のナショナリズム、あるいはそれを支える均一性の幻想とのかかわりにおいてである、という事であった。これらの考察は、日本のクィア・スタディーズ、とりわけクィア理論は、その緊急の課題として、性的マイノリティ集団にかかわる政治に限定されないより広汎なバイオ・ポリティクスの現代日本における形態を明らかにし、さらに、それを英米での生権力論の単なる応用ではない観点から行わなくてはならない、という事を、明らかにした。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

① SHIMIZU, Akiko. 'Scandalous Equivocation: A Note on the Politics of Queer Self-Naming'. *Inter-Asia Cultural Studies*. vol.8-4. 2007.

② SHIMIZU, Akiko. 'Let Us Talk About "Queer" (But In Which Language?)'. *Social Science Japan Journal*. II-2. 2008.

[学会発表] (計4件)

① SHIMIZU, Akiko. 'Surviving the Misrecognition: How to Un/Do Identity Politics'. 2007 IACSS Shanghai Conference (2007/6/16).

② 清水晶子. 「グローバル・クィアとホモセクシュアル・エグザイルの間で」. 2008年度日本女性学会大会(2008/6/15).

③ SHIMIZU, Akiko. 'Queering of the Reproductive Time-line'. 2009 IACS Tokyo Conference (2009/7/5).

④ SHIMIZU, Akiko.

'My Future Grandmothers: Imagining Queer Generations in Japan'. World Outgames 2nd Conference on International LGBT Human Rights (2009/7/29).

[図書] (計1件)

① SHIMIZU, Akiko. *Lying Bodies: Survival and Subversion in the Field of Vision*. (Peter Lang, 2008)

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

清水 晶子 (SHIMIZU, Akiko)

東京大学・大学院総合文化研究科・准教授

研究者番号：40361589

(2) 研究分担者 なし ()

研究者番号：

(3) 連携研究者 なし ()

研究者番号：